



明治時代から続く伝統の「お節会」。炭火で丹念に焼き上げた餅に熱々の出汁を注いだ一椀が身も心も温める

新春の親里 伝統行事に3万9678人

天理教教会本部「お節会」

新春の風物詩、である天理教教会本部(奈良県天理市)の「お節会」が、1月5日から7日まで開かれた。明治時代の初め頃から続くこの伝統行事は、正月三が日、本部神殿にお供えされた鏡餅を、1月4日の「鏡開き」でほどよい大きさに切り分け、すまし汁仕立ての雑煮にして振る舞うもの。3日間で3万9678人が来場し、親里は連日大いににぎわった。期間中は、全国から集まった信者や親里で学ぶ学生・生徒ら約5000人が真心を込めて、会場準備や接待、誘導などに当たった。

